

Q & A、実践例及び用語解説（平成30年1月19日追加）

ここでは、県内の高等学校等から寄せられた、生徒による政治的活動等の取扱いに関する疑問について、Q & A形式で回答しています。

さらに、本県の主権者教育を進めるための四つの視点を踏まえた、授業実践例を示していますので、主権者教育を実践する際の参考にしてください。併せて、授業実践例で使用された用語についても解説を掲載していますので、参考にしてください。

Q14

けがや障害等で、字が書けない生徒が、投票に行ったときに受けられる援助などがあれば教えてください。

生徒による政治的活動等の取扱いに関する質問

A 投票に際して、保護者等が付き添うことはできませんが、投票所にいる選挙事務従事者が付き添い、本人の意思を確認して代筆等により投票することとなります。

Q15

実習船による乗船実習を行っているときに、衆議院議員の総選挙又は参議院議員の通常選挙が実施される場合、実習生が洋上投票をすることは可能ですか。

生徒による政治的活動等の取扱いに関する質問

A 公職選挙法の一部を改正する法律が、平成29年4月10日から施行され、実習生についても、船舶上でファクシミリ装置を用いた不在者投票である洋上投票を行うことができるようになりました。

なお、洋上投票を行うためには、実習生の所属する機関の長が、あらかじめ地方運輸局長等に対して、練習船実習生証明書の交付申請を行い、交付を受けておく必要があります。

併せて、実習生は、出港前に選挙人として登録されている市町の選挙管理委員会に練習船実習生証明書を添えて、選挙人名簿登録証明書の交付を受けておく必要があります。

その後、投票送信用紙等の交付の請求等は、実習船の船長が行いますので、その指示に従ってください。また、投票送信用紙等の交付の請求については、船長の代理人（学校の教職員等）でも可能です。

実践例 ⑪

主権者教育の視点：「自分で考え判断する」

(科目等) 国語表現
(単元名) 合意形成のための話し合いをしよう

<ポイント>

- ・相手の立場や異なる考えの尊重
- ・論拠に基づいて意見を表明

1 本時の目標

「卒業文集のテーマ」について話し合うことを通して、相手の立場や異なる考えを尊重し、合意形成を図ることができる。

2 学習計画

学習内容・活動	指導上の留意点
《事前課題》 ○ 話し合いの議題である「卒業文集のテーマ」について、各自が自分の高校生活を振り返り考えてくる。 《本時》 1 本時の目標を確認してから、4～5人のグループで、各自の意見を発表し、共有する。 【予想される意見】 ・ 「高校生活の思い出」 ・ 「私と部活動」 ・ 「後輩に贈る言葉」 など 2 次の観点を踏まえ、グループで「卒業文集のテーマ」について話し合い、グループの合意としてのテーマを決定する。 (1) 「そのテーマがふさわしいと思う理由」について、根拠を明確にして説明することができるか。 (2) グループの全員の立場や考えを尊重したものとなっているか。 (3) どのような作文を書いたらよいかが明確なテーマとなっているか。 3 決定したテーマとそのテーマを選んだ理由について、各グループが発表する。 4 話し合いを通じて感じたこと、他のグループの発表を聞いて気付いたことなどを振り返りシートに記入する。	○ 「テーマ」と「そのテーマがふさわしいと思う理由」について考えてくるよう指示しておく。 ○ 意見を共有する前に、以下のことに留意するよう指示をする。 ・ 多数決で意見をまとめる活動ではないこと ・ 他者の意見を否定しないこと ○ 話し合いの活動に入る前に、話し合いの観点を明確にするため、以下のような例を示す。 ・ 「高校生活の思い出」は、明確なテーマ性をもっているだろうか。 ・ 「私と部活動」は、全員が作文を書けるテーマになるだろうか。 ○ 「自分たちのグループとは、違った考えや立場のテーマがないか」「自分たちのテーマを更に深めるヒントはないか」などに着目しながら、他グループの発表を聞くよう留意させる。 ○ 他者の立場や考えを踏まえ、自分の考え方の変化に気付くことができるよう、振り返りシートを構成する。

(科目等) コミュニケーション英語Ⅰ
(単元名) 環境問題について考えよう

＜ポイント＞

- ・ 社会に貢献する方法を考察
- ・ グループによる意見の構築

1 本時の目標

世界の環境問題について知り、その解決に向けて自分たちにできることを考え、英語で表現することができる。

2 学習計画

学習内容・活動	指導上の留意点
《前時の学習》 1 環境問題について、事前に各自で調べてきた内容を英語で共有する。 ・ ペア又はグループで情報交換し、その後クラス全体で情報を共有する。 ・ 地球温暖化、大気汚染、砂漠化などについて考える。 2 教科書の中の環境問題に関する題材を読み、内容を理解する。 ・ 環境問題の解決に向けて考察するために、その現状と課題を知る。 《本時》 1 環境問題の解決に向けて、英語で集団討論を行う。 ・ 4～5人のグループをつくり、グループごとに関心のある環境問題を一つ取り上げる。 ・ その原因と解決に向けてできること（ボランティア活動など）について話し合い、グループとしての意見をまとめる。 2 グループでまとめた意見を英語で発表する。 ・ クラス全体で考えを共有する。 3 話し合いや、他のグループの発表を聞くことを通して、環境問題の解決に向けて自分にできることを整理する。 ・ 英語で、振り返りシートに記入する。 ・ ペアでシートを交換し、英語でコメントを添えて、本人に返却する。	○ 日本と世界の環境問題の現状とその原因を、学校図書館や新聞、インターネット等を活用して調べてくるよう事前に伝えておく。 ○ 環境問題を引き起こしている原因として考えられることまで、相手又はグループのメンバーに伝えるよう指示する。 ○ 題材を提示する際に、必要な語彙や表現について確認する。 ※ ○ 英語のQ&Aやグラフィックオーガナイザーなどを効果的に用いて、内容の理解を図る。 ○ 環境問題の解決に向けて、自分たちができることを、グループで多面的・多角的に考えるよう指示する。 ○ 話し合いの中で、教科書で出てきた単語や英語表現をなるべく使うよう指示する。 ○ 必要に応じて、指導者が生徒から質問を引き出し、発表グループに英語で答えさせる。 ○ コミュニケーションが自然に生まれるよう他者の考えに英語でコメントさせる。

※ グラフィックオーガナイザー：情報を視覚化し整理するためのワークシート

(科目等) 家庭基礎

(題材名) 環境に配慮した食生活について考えよう

<ポイント>

- ・ 協働的に追究し解決する力の育成
- ・ 論理的思考力

1 本時の目標

食品の選択・購入、調理、廃棄の各過程について理解を深め、環境に配慮した食生活の工夫について考える。

2 学習計画

学習内容・活動	指導上の留意点
《前時の学習》 ○ 4人のグループで夕食の献立を考え、クラスで発表する。聞き手は気付きを付箋に記入し、その付箋を発表したグループの献立用紙に貼る。 《本時》 1 本時の目標を確認する。 2 エキスパート活動 下のエキスパートグループA～Dに分かれて、環境に配慮した食生活の視点から選択・購入、調理、廃棄の各過程について考え、ワークシートにまとめる。 A フードマイレージ・食料自給率 B 食品ロス C 3R・5R D 地産地消 3 ジグソー活動 エキスパート活動で得た知識を活用し、選択・購入、調理、廃棄の各過程について、自分たちができることを検討し、A3判用紙にまとめる。 4 クロストーク グループで、前時に考えた献立を環境に配慮した食生活の視点で見直し、改善した献立について大判用紙にまとめて発表する。 5 環境に配慮した食生活を営むために、本日の学習を実生活にどう活用するか、ワークシートに記入する。	○ 発表を聞く際は、発表内容の「食材選びのポイント」「調理上、工夫した点」に着目するよう指示する。 ○ 一人20枚程度の付箋を配付する。 ○ 前時に献立を考えたグループで、環境に配慮した食生活について考えることを伝える。 ○ 知識構成型ジグソー法※7の進め方について、説明する。 ○ 献立を考えたグループごとに協議して、A～Dの分担を決めさせる。 ○ エキスパート活動に入る前に、以下のことに留意するよう指示をする。 ・ エキスパート活動で学んだことを、献立を考えたグループのメンバーに説明できるようにする。 ・ 不明な点は、エキスパートグループのメンバーと協議し、解決を図る。 ○ エキスパート活動で得た知識を生かして、気付きやアドバイスを付箋に記入し、献立を考えたグループのメンバーに説明するように伝える。 ○ 「考案した献立」「アピールポイント」「改善点」について、大判用紙にまとめて発表するよう伝える。 ○ メモをとりながら発表を聞くよう指示する。 ○ 今後、食生活で重要視するポイントをワークシートに理由を添えて記入させる。

(科目等) 商品開発
(単元名) 商品の開発

＜ポイント＞

- ・ 社会の一員としての自覚
- ・ 地域経済と自分との関わり

1 単元の目標

地域の企業と連携した商品開発を通して、地域社会や地域のビジネスに対する理解を深めるとともに、地域社会に積極的に参画する態度を身に付ける。

2 学習計画（全15時間）

学習内容・活動	指導上の留意点
1 連携先の企業について調べ学習（1時間） ・ 3～4人のグループに分かれ、調査する内容を決める。 ・ 連携先企業について既知情報を書き出し、グループで共有する。	○ 企業理念、歴史、商品等を調べさせ、企業についてのイメージを高めさせる。
2 連携先企業の方からの講義・演習（2時間） ・ 商品開発についての講義を受ける。 ・ 商品開発に向けて、グループごとにワークショップを行い、アイデアを出し合う。	○ 商品開発において試行錯誤したことなどを聞き取るように指示する。 ○ ワークショップのテーマは、地域の特色や地域の課題などを意識したものを提示する。
3 試作品の作成と改善（1時間） ・ アイデアを基に作成された試作品を、試食又は試用する。 ・ 試作品について率直に意見を出し合い、改善を行う。	○ 事前に連携先企業に試作品を作成してもらっておく。 ○ 試作品について、作るときの工夫や思いなどを作成者の方から丁寧に聴くよう指示する。 ○ 率直に意見を出し合うことで、企業にとっても良いフィードバックになることを意識させる。
4 試作品のネーミング、価格、パッケージの決定及び調査用紙等の作成（4時間） ・ 試作品のネーミング、価格及びパッケージについて連携先企業の担当者と相談しながら決めていく。 ・ 試作品を販売する際に行う調査用紙等を作成する。	○ ネーミングやパッケージについては、自分たちの思いや地域の特色、課題が反映されているかを意識させる。 ○ 価格については、ビジネス基礎やマーケティング等で学んだ原価や利幅についての学習との関連を意識させる。
5 試作品の販売（4時間） ・ 地元の祭りやイベント、連携企業先のアンテナショップ等で販売活動を行う。 ・ 商品についての定性調査（インタビュー）や定量調査（アンケート）を行う。	○ 販売活動や調査の様子を記録し、生徒がレポートを作成する際に生かせるようにする。 ○ アンケートについては集計、分析しやすいように質問項目や質問数について考えさせる。 ○ ビジネスにおける商標権や意匠権の意義についてもふれておく。
6 まとめ（3時間） ・ 調査の統計・分析を行い、取組について振り返り、レポートにまとめる。 ・ 礼状を書く。	○ 文章や写真、表、グラフなどのバランスに留意したレポート作成を行うよう指示する。

実践例 ⑮

主権者教育の視点：「投票に向けて準備する」

(科目等) LHR

(単元名) 主権者教育講演会

<ポイント>

- ・ 政治参加の意義
- ・ 保護者への周知と理解促進
- ・ 特別支援学校における主権者教育

1 本時の目標

選挙管理委員会の出前講義を受講することで、選挙の具体的な仕組みを理解する。

また、代理投票など、選挙の際に有権者が受けることのできる支援について、保護者にも周知することで、生徒の投票行動が円滑に行われるようにする。

2 学習計画

学習内容・活動	指導上の留意点
※ 特別支援学校において、高等部3年生及び保護者に対して実施	
《事前指導》 ○ 選挙権年齢が18歳以上であることや日本の政治制度及び選挙の仕組みに関する基礎的な知識・概念などについて説明する。 ○ 講師である選挙管理委員会職員について生徒に紹介しておく。 《本時》 1 選挙管理委員会の出前講義を受ける。 ○ 選挙の意義について ○ 選挙の種類及び投票の方法について ○ 選挙運動における留意点について ○ 投票の際に受けることのできる支援について（代理投票） ・ けがや障害等で、字が書けない生徒が、投票に行った時には、投票所にいる選挙事務従事者が付き添い、本人の意思を確認して代筆等により投票する。 ・ 投票に際して、保護者等が付き添うことはできない。 ・ 本人の意思を確認する方法として、 ① 候補者の一覧表から投票したい人を指さししてもらう。 ② 候補者名を声に出してもらった上で、更に記載した候補者名を再度本人に確認してもらう。 ③ 候補者の名前を順番に読み上げ、投票したい候補者のところでうなずいてもらう。 などがある。 2 講義の内容について、振り返りを行う。	○ 選挙権年齢や日本の政治制度及び選挙の仕組みについては、既習事項であるが、再度、確認をする。 ○ 出前講義の際に、生徒が戸惑うことがないように、講師について説明しておく。 【選挙管理委員会との事前打合せ】 ○ 講義の内容について、事前に選挙管理委員会の職員と打合せを行っておく。 ・ 使用するスライドは、イラストを用いるなど、生徒が理解しやすいものにする。 ・ 講義で使用する資料は、学校・生徒の実態に応じて、選挙管理委員会職員が教員と協力して作成する。 【講演会に参加しなかった保護者への対応について】 ○ 当日、参加できなかった保護者には、投票の際に受けることのできる支援など、「主権者教育講演会」の内容をまとめたものを配付し、周知を図る。

実践例 ⑯

主権者教育の視点：「自分で考え判断する」

※ 福井大学学術研究院 橋本 康弘 教授提供

(科目等) LHR

(单元名) 学校生活におけるルールづくり

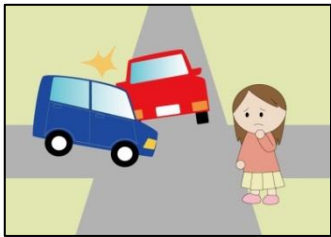
<ポイント>

- ・協働的に追究し解決する力
- ・特別支援学校における主権者教育

1 本時の目標

身近な問題に対する解決策づくりを体験的に行うことを通して、解決策を作成する過程においては、合理的な意見をもつことや、議論を経た合意形成に基づいて問題を解決することが重要であることに気付くことができる。

2 学習計画

学習内容・活動	指導上の留意点
1 信号機や横断歩道がない交差点で、事故が起きている画像を見せる。  2 以下の〈設定〉について、各自で解決策を考える。 〈設定〉 ・ 特別支援学校高等部 2 年 1 組、生徒は 4 名在籍している。 ・ 週 5 日のごみ捨て当番を、生徒 4 名で分担する際のルールを考える。 ・ 毎日、4 名のうち誰か 1 名が、校舎 2 階の教室から 1 階のごみ捨て場に、ごみを持って行く。 ・ 生徒から「誰か一人だけが週 2 回、当番をするのはどうか」という提案があった。 3 グループで議論し、合意形成することで、問題の解決策をつくる。 【提案に対して予想される解決策】 「ごみ箱に一番近い人が、2 回持って行けばよい」 「たくさんごみを出す人が、2 回持って行けばよい」 【解決策に対する公平を視点とした助言 (例)】 「ずっと同じ人が 2 回当番でよいのか」 4 グループで議論した内容を発表する。 ・ 議論の経過とその結論について発表する。	○ 事例を紹介することで、ルールの大切さに気付かせる。  ○ 体験的な活動を行うことで、何らかの解決策を見出す必要性を感じさせる。 ○ 生徒が考えやすいように、〈設定〉中の「生徒 4 名」の各状況を、具体的に設定しておく。 (例)「足をけがしている」 「座席がごみ箱の近くにある」 「鼻炎でティッシュをよく使用する」など ○ 学習者の考え方で、様々な解決策が出されることが予想されるため、学習者には「間違った答え」はないことを伝える。 ○ 生徒が、設定した状況のみを考慮して解決策を考えた場合は、合意形成が難しいため、以下のような視点をもって合意形成が図れるよう指示する。 ・ 「全員が納得できるルールはどれか」 ・ 「この場面での公平とは、どういう状態をいうのか (一定の期間内で回数が同じ、できる人が行う、できない人を助ける など)」 ○ ルールは、状況をみながら、定期的に見直す必要があることを示唆する。

用語解説

○ 知識構成型ジグソー法※⁷

知識構成型ジグソー法は、東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF) が提案している「いくつかの異なる考えを組み合わせることで課題に答えを出す学習法」です。この学習法のねらいは、関わり合いを通して一人ひとりが学びを深めることにあります。(進め方等詳細については、「知識構成型ジグソー法」 [<http://coref.u-tokyo.ac.jp/archives/5515>](東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構ウェブページ) を参照してください。)